

花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～



高浜市立吉浜小学校
令和6年10月1日 No.46

トイレトペーパーの芯、その後…



5月22日の吉浜小学校だより「花咲く明日を」No.16で左の写真を載せ、トイレトペーパーの芯の片付け方について記しました。「すぐにいっぱいになり転がり落ちてしまうので芯を潰して入れている」という4年生の子たちの自主的な取組を紹介しました。

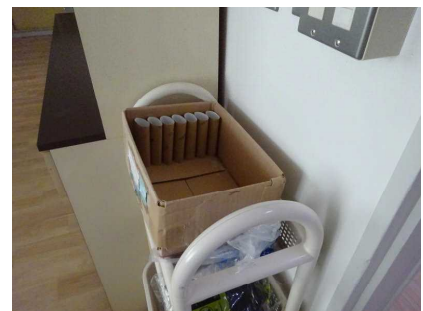


現在の保健室の「トイレトペーパーの芯を返す箱」の様子が右の2枚の写真となります。芯が潰されていることは前回同様ですが、芯が全部立てられていました。たまたまだろうかと思い、数日たってからまた見に行ってみると潰された芯がこの日も立てられていました。このような芯の返し方が定着しているようです。

前は、芯を潰すことを考え、自主的に取り組んだ様子を紹介しましたが、今回はきちんと整頓して立てて入れるという工夫が加わっていました。この返し方であれば箱にはたくさんの芯が入りますし、何より目にする人も気持ちがよくなると思います。

この経緯について養護教諭の渡邊先生に聞いてみると、教員が指導したことなく、保健室掃除やトイレ掃除で芯を返しにくる子どもたちが考えてやり始めたそうです。それがこれに関わるみんなに広まり定着していったそうです。

きっと前回の学校だよりで、「自主的な取組のよさ」について記しましたが、「まだ一工夫できる」「もっと整頓したらどうだろう」と感じた子もいた（吉浜小学校だより「花咲く明日を」はタブレット端末のロイロノートの資料箱に保存しており、子どもたちも見るできるようになっています）のでしよう、芯を返す箱はこのように大きく進化しています。自分たちにできることを積極的に進め、それを学校のスタンダードにしてしまう子どもたち、大変心強く感じます。



交通安全ポスター～入賞おめでとうございませ～

☆優秀賞

1の3 高倉 凜	2の2 都築 大和	3の3 大西 莉央
4の4 横井乃々葉	5の4 矢野 奏	6の2 野々山侑花

☆入選

1の3 鈴木 一華	1の4 フィン アキコウ	2の2 吉田 那月
2の3 綾城 瑠姫	3の1 山口 奏太	3の3 鈴木 緋那
4の2 清水 虹菜	4の2 杉浦 智拓	4の3 高木 晴矢
5の1 磯部 太耀	5の3 神谷 陸斗	5の3 内藤 新
6の3 花井 萌彩	6の4 杉浦 花梨	6の4 辻 花音

☆佳作

1の1 山下 実優	1の2 齋藤 心遙	1の4 桑村 結菜
2の1 浅井 百音	2の2 矢野凜太郎	2の4 古橋 優杏
3の2 池野 愛奈	3の4 鹿島 海煌	3の4 友利 琉翔
4の1 小嶋優衣花	4の4 グエン チュウオン ヴィ	
5の3 綾城瑠々愛	5の4 藤平すみれ	6の4 興梠 尊良
6の4 若山 結菜		

花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～



高浜市立吉浜小学校
令和6年10月4日 No.47

交通安全教室

幼稚園児、1年生、そして3年生が参加する交通安全教室。トラックの巻き込み事故や飛び出し事故の再現を見せてもらい、3年生についてはさらに自転車の安全な乗り方について公道走行を助けていただく予定でした。残念ながら雨天のため3年生のみが体育館で交通安全のお話を聞くという形で実施しました。この日は、碧南警察署交通課の近藤さん、高浜市役所防災防犯グループの神谷さんにお話をいただきました。

近藤さんからは県内で発生した小学生がケガをした事故の件数(右表)を教えてくださいました。例年は自転車運転中の事故が多いのですが、去年は自動車同乗中の事故が多かったとのこと、下のようなお願いがありました。

☆自動車に乗る時は必ずシートベルトをする。
身長が130cm未満であればチャイルドシートを使うとよい。

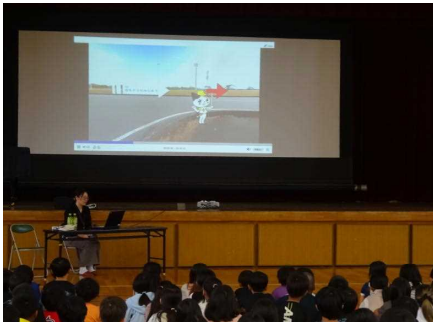
☆愛知県内の小学生の交通事故(令和5年)

・小学生がケガを負った事故	725人
うち自動車同乗中	58人
自転車運転中	45人
歩行中	30人

☆愛知県内の交通死亡事故(10月2日現在)

・101件
東京都(103件)について第2位

神谷さんからはクイズやビデオを交えながら自転車の安全な乗り方について教えてくださいました。最後に「自転車の点検」についてのキーワード「ぶたはしゃべる」の意味を確認しました。私は始めて聞く言葉でした。「ブレーキ・タイヤ・ハンドル・しゃたい(車体)・ベル」だそうです。ご家庭でもお子さんと一緒に自転車点検をしてみてください。



子どもの頃は何事も経験することが大切です。時には失敗することもあります。しかし、その中で子どもなりに考え、乗り越え、そうして成長していくものであると思います。しかし、交通事故は、「事故にあって考え、学ぶ」という理屈は通用しません。その事故で命を落とすこともありますから。私は若かった頃、交通事故にあいました。優先道路を走る私は、一時停止をせずに横断しようとして飛び出してきた自動車に衝突されました。この時はオートバイでしたので、ケガも大きく1ヶ月半ほど入院し、退院後もリハビリを続けることになりました。腕には大きな傷跡が今も残っています。それでも生きてよかったとつくづく思います。

横断歩道を渡っているのに衝突されたり、青信号を渡っていたのに跳ねられたりするなど、ルールを守っていても事故になったというニュースがたびたび聞かれます。なんともやりきれません。交通ルールを守ることは当然として、加えて周囲の状況に気を配り、交通事故にあわないようにしなければなりません。交通安全やきまり、ルールについてご家庭でも話題にしてみてください。

花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～



高浜市立吉浜小学校
令和6年10月8日 No.48

心が温まります

朝、7時40分くらいのことでした。すでに登校し、ランドセルなどを教室に置いた6年生の子たちが再び正門付近にやってきました。その後もその付近を通る子たちと挨拶をしたり、会話をしたりしていましたが、なかなかその場を離れませんでした。数分後、この子たちがここにとどまっていたのはある子を待つためであったことがわかりました。

この子たちが待っていたのは同じくクラスで、松葉杖を使っている子でした。駐車場まで自動車で送ってもらったようでしたが、その子を見つけるやランドセル等を持ってあげ、隣に付添ながら玄関の扉を開けるなどして、教室の方へ向かっていったのでした。



これまでも似たようなことがありました。近くにいた子が、大変そうな子を支える場面を何度も目にしました。今回は、少し違って、たまたまそのような場面に遭遇したのではなく、すべてを想定した上での行動でした。そして、次の日も同じように松葉杖の子を待つ6年生の姿がありました。上の写真はこの時のものです。担任によると松葉杖で登校した翌日からお手伝いが始まったようです。

この様子を登校する他学年の子どもたちも見ていました。これまでも6年生の気持ちのよい行動を見てきたことでしょう。下級生はこのような6年生の姿を見て、「6年生ってすごいな」「わたしもまねしたい」そんな気持ちになっていると思います。だからこそ同じような場面が広がって、心温まる行動が広がっているのだと感じます。本当に有り難いことです。

いよいよ小学校生活最後の1年も折り返しに入った6年生です。あと半年、6年生がどのように過ごしていくのか本当に楽しみです。

花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～



高浜市立吉浜小学校
令和6年10月9日 No.49

手話教室



3年生の福祉実践教室。今回は手話教室の開催です。講師として内藤様、野々山様に来ていただき、手話についてクイズや実技を取り入れながら楽しく教えていただきました。

「手話はどの国に行ってもでも通用する。○か×か」というクイズがありました。答えは×で、日本には日本の手話、韓国には韓国の手話など、その国独自の手話があり、世界共通のものではないことに子どもたちは驚いていました。

また、聴覚障がいの方とコミュニケーションをとるために手話以外にも筆談、口話、空書などがあることを学び、その一部を体験しました。教室の仲間によく伝えられ、嬉しそうな表情が見られました。

そのような中、本校の伊庭先生は手話を使って講師の方とコミュニケーションをとっていただきました。聞くところによると、手話の勉強をされたそうです。習得するまでに3年ほどかかったとのことですが、今では普通に使いこなすことができるそうです。福祉を学ぶ3年生の子どもたちにとって大変心強い存在です。

最後は手話でお礼「ありがとうございました」を伝え、教室を閉じましたが、その後、講師の先生方のそばに行って、手話で伝えたり、手話を見てもらったりしていました。貴重な経験ができたと思います。



花咲く明日を

～ 吉浜小学校だより ～



高浜市立吉浜小学校
令和6年10月11日 No.50

令和6年度前期終了

今日で前期が終了します。楽しく学校生活を送ることができましたか。最近、「楽しいから笑う」のか「笑うから楽しい」のかどっちだろうという話をよく聞きます。みなさんはどう思いますか。脳科学の研究によると後者、つまり、「笑うから楽しい」なんだそうです。

例えばこんな実験があるそうです。割り箸を縦にくわえてみます。(やってみせて)先生の表情はどんなふうに見えますか。続いて横にくわえてみます。(やってみせて)表情はどうでしょう。この実験は割り箸を縦にくわえてマンガを読むグループと横にくわえて同じマンガを読むグループで、そのマンガの面白さを判定してもらおうというものだそうです。結果は横にくわえて読む方が面白いと感じる人が圧倒的に多かったというのです。つまり、笑顔でいることが楽しいと感じる気持ちを生み出すというのです。

たまには気分が乗らない日もあると思います。そんな中でも笑顔で過ごす、声を出して笑ったりすることで楽しい毎日になるものです。まずは朝起きた時、家を出るときに「おはようございます」「行ってきます」、そして、校門をくぐる時、教室に入るときにも、にこにこの笑顔で「おはようございます」と言ってみましょう。きっと楽しい一日になるのではないかと思います。

さて、今日、みなさんは通知表をもらいます。これを見ると、この半年間の皆さんの学習の様子が分かります。「Aがいくつあった、Cがいくつあった」と、数を数えて喜んでいる人がいますが、通知表は自分のよく頑張ったところやこれからもっと頑張るとよいところを確認して、次から頑張っていくための目標を決めるものだと思います。お家の人もそんなふうに通知表を見てほしいと思います。

さて、四月の始業式で、「今年度の最後には、こうなっているといいな」という自分の姿を思い描いて、目標を決めて学校生活を送ってください」という話をしました。覚えていますか。自分で決めた目標に今のくらい近づいていますか。まだまだの子もいれば、あと少しという子もいることでしょう。自分の目標が達成できるよう後期も頑張ってください。

最後に、六年生の皆さん、吉浜小学校で過ごすのもあと半年となりました。これまでの前期、皆さんは最高学年として、下級生に素敵な姿をたくさん見せてくれました。最近では松葉杖で登校する仲間を毎日、通路で待っていて、ランドセルを持ってあげるなど、支えている姿を見ました。どれも誰かに言われたからやっていることではなく、自分たちで考えてやっていることでした。

自分から進んで行動することは少し勇気のいることです。でもよいと思ったことは遠慮せずにごんごんやっている六年生を大変誇らしく思います。そして、五年生の皆さん、半年後には六年生に代わってこの吉浜小学校を引っ張ってもらわなければなりません。六年生の姿に学びながら来年に向けて経験を重ねてください。下級生の皆さん、高学年のお兄さん、お姉さんに続いてください。(終業式にて)

本日、通知表を持ち帰ります。AやCの数は保護者のみなさんも気になるころではあると思います。しかし、よく頑張ったところを認め、これから頑張らなければならないところをお子さんと一緒に確認するそんな見方をいただくとありがたいと思います。そして、この前期を振り返って、お子さんと話していただき、できなかつたことよりもできるようになったことについてしっかり認めてあげてほしいと思っています。結果よりもその過程を認める、褒める方が子どもの意欲やチャレンジ心を高めるものです。よろしくお祈りします。



<3年 高橋杏奈さん>